

防災・減災 にいがたプロジェクト2024

つないだ記憶がモシモを救う

ヒトゴトからジブンゴトへ 2024年は本県にとって災害の節目の年でした。プロジェクトでは、それぞれがどんな災害だったのか、得られた教訓は何だったのかを振り返り、未来につなぐべきことを考えました。一貫したテーマは「ヒトゴトからジブンゴトへ」。今回は連載のまとめとして、4回の内容をかえりみつつ、総括として行われた地方創生フォーラムを紹介します。

今、振り返るあの時の教訓

あれから 60年 新潟地震

1964.06.16

時は高度成長期、日本が未来を夢見ていた頃に新潟市は地震に見舞われたんだ。「防災」という言葉も、災害に対する心がまえや準備もほとんどなかった時代。被害は長引き、地震と液状化現象の関連にも注目が集まったよ。

あれから 50年 新潟焼山火山災害

1974.07.28

水蒸気噴火によって上越市や新井市（現妙高市）が火山灰で真っ白に。今でも一部の斜面から噴気が上がり、監視体制も強化されている。雪国である本県は、積雪の多い時期の噴火にも備えておかねばならないって学んだね。

あれから 20年 平成16年7月 新潟・福島豪雨

7.13水害
2004.07.12～18

記録的な豪雨により刈谷田川、五十嵐川などが決壊。三条市、見附市などで13,700haが冠水したんだ。気候変動によって自然災害が激甚化、頻発化する中、さらなる備えや、防災もアップデートする必要があることを問いかけていたね。

あれから 20年 中越大震災

2004.10.23

震度計が設置されてはじめて震度7を記録した地震。中山間地を直撃し、山崩れや土砂崩れ、道路の分断が起こったんだ。「災害関連死」や「エコノミークラス症候群」も注目された。「ジブンゴト」にするには、記憶を風化させることなく伝えていかなければならない、そう教えられたよ。

2024 地方創生フォーラムin新潟

多様な主体の連携・協働による災害に強い地域づくり

防災・減災 新潟プロジェクト2024 ～つないだ記憶がモシモを救う～

個人、地域、ボランティアや関連団体などさまざまな主体が連携・協働することで、災害に強い地域をつくることをテーマにしたフォーラムが、1月22日、新潟県民会館で行われました。防災システム研究所所長の山村武彦さんが基調講演を、続けて地域防災にさまざまな側面から取り組む4人のパネリストとともに意見を交わされました。

次世代へしっかりとつなぐ教訓は？
防災・災害を自分ごとに



近い将来、新潟で大きな災害って起こると思う？

うん、起こると思うよ。



今夜、起こると思う？

それは、どうかな？



「今夜起こることはない」「自分は大丈夫」。人はそう思ってしまうが「千年に一度」と言われる災害が今日にも起こるかもしれない。

ではどうすればいいの？

- ・まず地震に備えて、家や職場でもっとも安全なところを探す。
- ・落下物やガラスの飛散がなく、閉じ込められない場所。家なら玄関、古い建物の1階なら外に脱出する。
- ・緊急地震速報が鳴ったら即座に移動する癖をつける。
- ・普段から津波や洪水などのハザードマップを確認して、家族で話しておく。

まずは一人一人が備え、それを家族、お隣、地域へとつなげて、いろいろな人や団体と手を結べば、地域の防災力は上がっていくよ。



hitogoto >>> ヒトゴトからジブンゴトへ! >>> jibungoto

人と人のつながりを結び直し 地域の防災力を上げよう

日本や世界の災害現場を訪れて思うのは、災害はすべて違う顔をしているということ。そして、人を守り助けるのは人だということ。災害そのものは防げませんが、準備をしておけば被害は抑えられます。そのためには過去の災害を語り継ぎ、一人一人の防災意識の啓発を図り続けることが一番重要ではないでしょうか。個人や企業、団体が協働し連携して「互近助」を構築していけば防災力は高まり、災害に強い地域をつくることができます。



防災システム研究所 所長
山村 武彦氏

結局は「人」。 まずは自ら人間力を磨いて

当機構は中越大震災後、災害に強く持続可能な地域を目標に設立され、産官学を含めた多様な主体とともに活動しています。連携協働は、結局は「人」。形や仕組み、ルールより人と人のつながりが重要で、自分自身がまず「この人とならなければ」一緒にできる、やりたい」と言ってもらえるように人間力を磨くことではないでしょうか。



公益社団法人
中越防災安全推進機構
事務局長
諸橋 和行氏



女性の視点で考える防災。 「0歳からの防災教育」を

防災は、性別や年齢によって必要なものが違います。子どもを連れて避難した人のアンケートを踏まえ、「子どもをどう守るか」の視点を加えて「0歳からの防災教育」を提唱しています。女性がもっと意見を言いやすい仕組みづくりにも取り組んでいきたい。

防災啓発を継承するには 熱いリーダーが不可欠

災害ボランティアのほか、学校防災教育やイベントを通じた防災啓発を行っています。社会福祉協議会に飛び込んだのを皮切りに、県、大学、高校の生徒会連盟ともつながって活動中。コロナ禍で中断した地域自主防災活動や高齢化が課題で、熱い思いを持った防災リーダーを再発掘していきたい。

特定非営利活動法人
日本防災士会・新潟県支部
事務局長
成川 一正氏

「楽しく」関わり地域に愛着を

内閣府が進めている地方創生2.0は詰まるところ人づくり。「産官学金労言士」が知恵を出し合い、力を合わせて地域づくりを進めるなかで、防災啓発にもつながれるといい。地域づくりに「楽しい」かどうかはすごく大事。楽しく関わって、自然と子どもたちが地域に愛着を持てるようになると思う。



笑顔の応援団NPO
とのまき 代表
椎谷 照美氏



内閣官房 新しい地方経済・
生活環境創生本部事務局
参事官
大瀧 洋氏

●私たちは、新潟の未来のためにこのプロジェクトに取り組んで参ります。【県市町村】新潟県／新潟市／長岡市／三条市／柏崎市／新発田市／小千谷市／加茂市／十日町市／見附市／村上市／燕市／糸魚川市／妙高市／五泉市／上越市／阿賀野市／佐渡市／魚沼市／南魚沼市／胎内市／聖籠町／弥彦村／田上町／阿賀町／出雲崎町／湯沢町／津南町／刈羽村／関川村／粟島浦村 【国土交通省】国土地理院北陸地方測量部／北陸地方整備局／気象庁新潟地方気象台 【報道機関】新潟日報社

お問い合わせ

防災・減災 新潟プロジェクト2024実行委員会（事務局）国土交通省 北陸地方整備局 企画部企画課 tel 025-280-8880

防災・減災 新潟プロジェクト



ホームページ



X (旧Twitter)